

1 1	海部	愛西市立永和中学校	ツバモト タカヤ 氏名 鏑 本 貴 也
分科会番号	2	分科会名	外国語教育

自ら学びを調整し、主体的に学習に取り組む生徒の育成
—即興でのやり取りを通して—

1 はじめに

近年、ICT技術が急速に発展・普及し、他国の人々と簡単に会話することが可能になった。一方、AIへの依存が懸念される中で、自ら考え、実際に英語を使う力の育成は今後ますます重要になると考えられる。新学習指導要領の目標には「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考え等を理解したり、表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質や能力を育成すること」と掲げられている。この目標を達成するためには、日常的な話題について、自分の考えを表現し、伝え合おうとすることが大切であるとする。したがって、自ら進んでコミュニケーションを図り、対話を通して、考えを表現し合うことのできる生徒の育成が求められる。

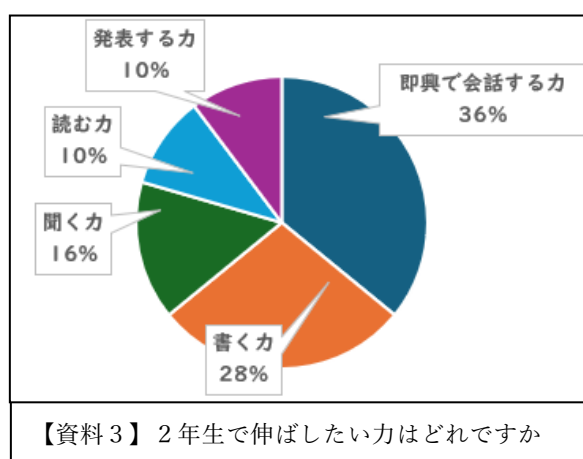
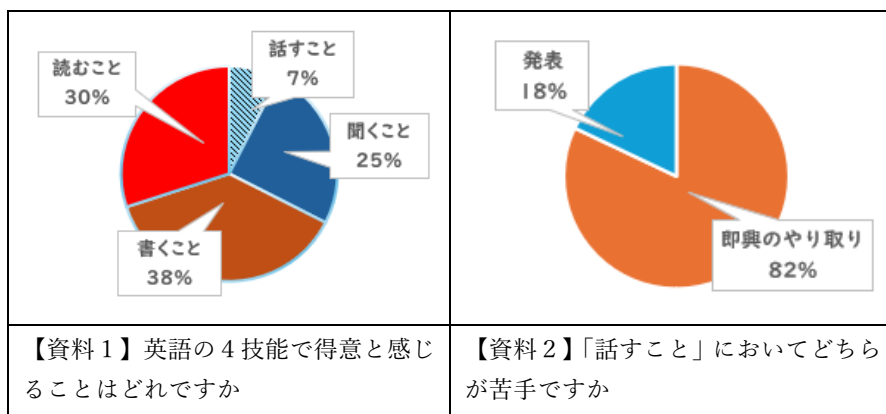
本校は一小一中であるため、生徒は9年間同じ仲間と学校生活を送ることとなる。そのため、生徒同士の話し合いや発言は積極的である一方で、英語を用いて自己表現をしたり発表したりする場面では、消極的になる傾向が見られる。そこで、本校の生徒の英語学習に対する意識を把握するために、4月に2年生を対象にアンケートを実施した。「英語の4技能で得意とを感じることはどれですか」

【資料1】という質問に対しては「話すこと」と回答した生徒がわずか7%であった。

多くの生徒が「話すこと」を得意とは感じていないことが分かった。

特に、「話すこと」において、「即興でのやり取り」と「発表」のどちらが苦手と感じるかアンケートを実施したところ、「即興でのやり取り」を苦手と感じている生徒が多かった【資料2】。その理由として、「即興でのやり取りは、発表と違って準備をしないので緊張してしまうから」「すぐに英語が思い浮かばないから」といった意見が多く見られた。さらに、「2年生で伸ばしたい力はどれですか」【資料3】という質問には「即興で会話する力」と答えた生徒が最も多かった。これらの結果から、生徒は即興で英語を用いたやり取りに対して課題意識がある一方で、その力を伸ばしたいという意欲ももっていることが分かった。

本校では「自ら問い、考え続け、学びを調整する生徒」の育成を目指している。単に知識を身に付けるだけでなく、「自ら課題を見いだす力」「粘り強く考える力」「自分の学びを振り返り、調



整する力」といった「学び方そのものの力」に焦点を当てながら研究を進めている。そこで、本研究では学びの成果を実感しやすく、生徒自身も向上させたいと感じている「即興でのやり取り」に焦点を当てた。「即興でのやり取り」と振り返りを通して、英語で自分の考えが他者に伝わる経験を多く積み重ねさせる。それにより自ら学びを調整し、主体的に取り組む生徒の育成を目指したい。

2 研究のねらい

(1) 目指す生徒像

自ら学びを調整し、主体的に学習に取り組む生徒

(2) 研究の仮説

仮説①

即興でやり取りを行う機会を充実させ、自分の考えが英語で相手に伝わる経験を積み重ねることで、主体的に英語学習に取り組む態度を育成できるだろう。

仮説②

小單元ごとに自分の課題を調整し、次時の目標を設定させることで、主体的に学習に取り組む態度を育成できるだろう。

3 研究の対象 中学2年生 41名（2クラス）

4 研究方法（研究の手立て）

【仮説に対する手立て】

(1) 仮説①に対する手立て

ア 場面や目的に応じた話型を提示し、毎回の授業の始めに3分間の **Small Talk** を行う。

Small Talk を通して会話の基本的なやり取りや相手の話した内容に合わせた質問の仕方を繰り返し練習し、相手の目を見たり相づちを打ったりしながら、相手が話した内容を理解し、質問するなどの一連の会話が成り立つようにする。

イ 生徒同士・ALTと会話する機会の設定

Small Talk やペア活動で相手に質問をして相手の考えを聞く機会を多く設定する。会話のテーマは教科書の **Enjoy Communication** や **Expression List**などを参考にする。また、ALTと対話する機会を設定することで、実際の場面を想定した英会話に慣れさせる。伝え方や表現が分からない生徒に対しては、その都度教師が支援したり、ICT機器を活用して調べさせたりする。

(2) 仮説②に対する手立て

ア 生徒がそれぞれの目標を設定する際には、会話で意識するとよい項目を、目標として設定しやすい難易度順に例示する。

イ 分からなかった英語や、使ってみたい表現をワークシートに記録させ、可視化する。

5 検証方法

(1) アンケート調査（4月・7月・1月実施）

(2) 授業中の生徒の様子

(3) 振り返りの記述内容

6 研究の実践

(1) 手立て①について

毎回の授業の初めの時間を使い、3分間の Small Talk を行った。Unit Activity で行う発表に続く即興的なやり取りにつながるように、話題は教科書巻末の Expression List を中心に選択した。相手の発言に対する質問や反応のイメージをもたせるために一つの発言を例に出し、どのような質問ができるか全体で確認し、繰り返し練習を行った。また、さまざまな会話表現を身に付けることができるように、小単元ごとに話題を変えて行った【資料4】。

4月当初に“What did you do during spring vacation?”を使ってペアで互いの春休みについて会話をさせたときには、最初の質問をペアの生徒に聞くだけで3分も会話が続き、困ってしまう生徒が多かった。生徒に理由を聞いてみると、「最初の質問以外にどんな質問ができるか分からない」という悩みが出てきた。実際の会話に近づけるためには話題に関して互いに質問し合うことが重要である。全体での確認だけでは十分ではなかったため、ワークシートに質問例を掲載し、会話中にも自分で確認しながら話せるようにした【資料5】。また、Unit 1の全体の課題を「テーマ以外に一つ相手に質問してみよう」に設定することで積極的に質問することを促し、Unit 2では「質問例を見ないで質問してみよう」にして自然な会話を目指した。Small Talkを進める中で、質問例を見ても会話が續かないペアには教師と一緒に質問を考えるなど、個別の支援を行い、相手の答えからどのような質問ができるかを確認した。

また、質問に対して、英文ではなく単語のみで答えてしまう生徒もいた。単語のみでも会話としては成り立つが、文法事項の定着につながりにくいため、ALTが参加する授業では、Small Talk中の机間指導やALTとの対話を通して、英文で話すように促した。また、必要に応じて生徒が話した英文の文法の誤りをその場で修正した【資料6】。

英文を正しい形に修正しながら会話をすることで、文法的に間違いが生まれることはあったが、自分なりに工夫して英文で聞いたり、話したりする生徒の数が増えた。生徒が話す英語の量が増えたことで、教科書で学んだ内容を定着させる重要な機会となった。

(2) 手立て②について

自然な即興でのやり取りを目指して毎時間の Small Talk において、ワークシートを活用した目標設定と自己評価を行った【資料7】。各単元の導入ではまず、Unit Activityの内容を示した。

Unit 1

①What are you going to do this weekend?

②What country do you want to go?

Unit 2

①What is your favorite food?

②What do you usually do when you have time?

【資料4】 Small Talk の話題例

【聞き手の反応リスト】	
・相手の発言に対して質問する	
英語	日本語
Do you (like) ○○?	あなたは○○が(好き)なんですか?
What is ○○?	○○とは何ですか?
Why do you think so?	どうしてそう思うのですか?
When do you (do) ○○?	いつ○○をしているの?
How often do you (do)~?	どれくらいの頻度で~していますか?
What about you?	あなたは何(どう)ですか?
Anything else?	他には何ですか?
・相手に共感する	
英語	日本語
Me, too.	私もです。
I think so, too.	私もそう思います。
You're right.	あなたの言う通りだよ。
I know ○○!	○○は私も知っているよ!
Oh, (相手の言ったことを繰り返す)。	へえ、○○なんだね。

【資料5】 ワークシートに記載した質問例

A L T: What are you going to do this weekend?

生徒 A: Disney Land.

A L T: I would say “I’m going to go to Disney Land.”

生徒 A: I’m going to go to Disney Land.

A L T: Beautiful. What is your favorite character?

生徒 A: My favorite character is Donald.

【資料6】 A L Tと生徒Aの対話例

その上で活動に向けて Small Talk で何を意識して練習するかを生徒自身に考えさせた。フィードバックを与えながら振り返りでもワークシートを活用させた。会話で意識させたい内容を、目標として設定しやすい難易度順に「ジェスチャーなど、英語を話す際に体をつかって表現する力」「積極的に会話に参加する力」「会話を進める力」の三つの項目に分け、ワークシートに例示した。生徒が自己評価できるよう、項目ごとに評価基準を設定した。毎回の自己評価を通して、Small Talk における自らの課題について振り返らせ、目標の難易度を調整しながら Unit Activity における即興でのやり取りに向けて力をつけさせた。

また、自然な会話について客観的に考えられるように、「ベストパートナー」として、小单元ごとに自分と話したペアのよいところや真似したいところについて記入させた。二人のうちの一人のよさについて書くことも、両者によさを見つけた場合は、二人とも記入してよいことを伝えた。

活動の中で、教科書に掲載されている語句だけでは、表現したい内容を英語で伝えられない場面も見られた。会話の中で思い浮かばなかった単語や表現は既習かどうかにかかわらず、「次に使いたい単語・表現」として、日本語と英語を記録させた。これを可視化することで語彙の定着を図り、Small Talk での会話量の増加を目指した。

目指せ！英会話マスターへの道

Unit 1

・全体の課題：「テーマ以外に相手に一つ質問してみよう！」

テーマ「 _____ 」

日付 Date	パートナー	追加の質問	意識した項目	自己評価
/				
/				

【ベストパートナー（パートナーの良かったところ・真似したいところ）】

【次に使いたい単語・表現】

日本語	英語	日本語	英語

【振り返り・これから身に付けたい力】

1. 会話の主導権（聞き手） S…例をアレンジした自分なりの質問やその場で考えた質問や言葉話す。 A…例を見つても、その場で考えた質問や言葉話す。 B…例を見て質問をしたり話したりする。	2. 会話の主導権（話し手） S…テーマに合わせて自分の考えを英文で話したり、相手に質問したりする。 A…テーマに合わせて自分の考えを英文で話す。 B…テーマに合わせて自分の考えを単語で話す。
3. 会話への積極性（聞き手） S…相手の発言に英文の形で聞き、相づちをする。 A…相手の発言に関する質問をしたり、相づちをしたりする。 B…相手の発言に単語だけで質問したり相づちをしたりする。	4. 会話への積極性（話し手） S…質問に答えたり、話題について話したりする。 A…質問に英文の形で答える。 B…相手の質問に単語だけで答える。
5. 表情 S…アイコンタクトや話題に合わせて表情を変える。 A…どちらかが話しているときは常にアイコンタクトをする。 B…アイコンタクトを心掛ける。	6. ジェスチャー S…難しい単語や相手に伝わらなかった言葉に応じで用いる。 A…相手に伝えたい内容を英語に合わせてジェスチャーを変える。 B…相手に伝えたい内容を身振り手振りで相手に伝える。

【資料 7】 Small Talk で使用するワークシートの一部

7 研究の成果と課題

(1) 成果

① 仮説①について

相手の発言に対する質問を全体で確認したことによって、表を見ながらでも相手の発言に対して積極的に質問しようとする生徒が多くなった。また、質問や反応を積極的に行うことで、会話が途切れない Small Talk を行うことができる生徒が増えた。その中でも特に、Unit 2 の Unit Activity に近づくにつれて質問表の例を、相手の話した内容によって使い分けたり、自分なりにアレンジしたりして、話そうとする生徒が増加した。Unit 1 の Small Talk では、ペアの人の回答に対して“Why?”としか聞くことのできなかった生徒が Unit 2 の Stage Activity でグループの人の発表に対して“When did you go?”や“Which do you like, ○○or ○○?”のように、発表の内容に合わせて、複数の疑問詞を使って多様な質問を即興でする姿が見られた。

また、Small Talk の話題を教科書巻末の Expression List から選択したことによって、Unit Activity の「イチオシのご当地グルメ」の紹介では“When do you eat?”などの疑問詞を使った質問だけでなく、“What flavor ○○ do you like?”などの Expression List の中心発問を使って、発表者に質問することができた生徒もいた。以上のことから、発表アクティビティをイメージ

して、毎回の授業において Small Talk を行うことで、発表について質問するなど、生徒が即興的なやり取りを活発に取り組めるようになったことが分かった。

即興的なやり取りについて生徒自身がどのように感じているかを4月と比較するために7月にアンケートを実施した【資料8】。「とても話しやすくなった」「話しやすくなった」と回答した生徒が7割を超える結果となった。その理由として、「たくさんやったことで慣れたから」「単語だけでも話せるようになって、ある程度相手に伝わるようになったから」といった意見が一定数おり、回数をこなすことで話すことに慣れ、言いたい英単語が以前よりも浮かぶようになった。また、「会話する相手から新しい単語や表現をゲットすることができるから」というペア活動のよさを実感する記述も見られた。

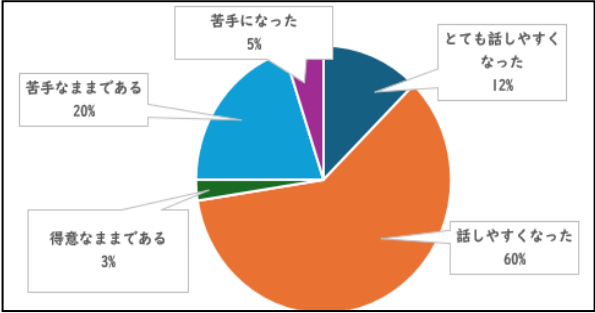
また、4月と同じ質問である「英語の4技能で得意と感じることはどれですか」【資料9】では「話すこと」「聞くこと」と回答した生徒の割合が4月に比べて増加した。このことから4月から継続してきた Small Talk を通して、自分の考えが英語で相手に伝えることができたという成功体験を積み上げた結果、「話すこと」「聞くこと」に対して得意だと感じることに繋がったのではないかと考えられる。

② 仮説②について

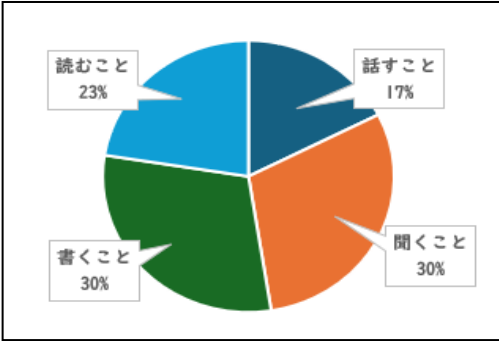
英語での表現に苦手意識をもつ生徒は、ジェスチャーや表情で伝えることを意識することが多かった。英語を積極的に話そうとする生徒は話し手、聞き手の両方の役回りを担い、主体的にペアとの会話を進めようと意識していた。毎回の目標設定と自己評価を通して、次の Small Talk で挑戦したいことを目標に設定する生徒や、不足している部分を次の目標にする生徒が見られた。英語学習に自信が

ある生徒 A は“What is your favorite restaurant?” の話題では積極的に会話に参加しようとしていたが、相手との会話が盛り上がらないことに課題を感じた【資料10】。そこで、次の話題である“ What do you usually do when you have time?” では会話の雰囲気をもくするのためにジェスチャーや表情での表現を練習するように目標を設定した。このように目標を自分の課題に合わせて設定することで、生徒が自分で学びを振り返り、目標を調整しながら設定し、学習に主体的に取り組む姿が見られた。

また、生徒 B は相手の質問に積極的に答えることで Small Talk に取り組もうとしていた。しかし、英語学習に自信がもてない生徒だったので、自分の考えを英語で表現することに課題を



【資料8】4月と比べて即興で話すことに対してどう感じますか



【資料9】英語の4技能で得意と感じることはどれですか

テーマ「What is your favorite restaurant?」				
日付 Date	パートナー	追加の質問	意識した項目	自己評価
6/12		What is your favorite menu? What about you McDonald?	3	A
6/15		What is your favorite topping? Do you like ramen? What juice?	4	S
[ベストパートナー(パートナーの良かったところ・真似したいところ)] do you like? 俺が私が話をしたときの雰囲気や声の調子が良かった。				
テーマ「What do you usually do when you have time?」				
日付 Date	パートナー	追加の質問	意識した項目	自己評価
6/16		What game do you play? Where do you baseball?	5	A
6/22		What your favorite character in Sakurafodays? What anime	6	A
[ベストパートナー(パートナーの良かったところ・真似したいところ)] do you watch? 俺の質問が英文があやふやでも身振りや声で伝えようとしていた。				

【資料10】生徒 A のワークシート

感じていた。そこで、生徒 B は「次に使いたい単語・表現」の欄を使って自分で調べたり、会話中にペアの子に聞いたりして、自分の語彙力を増やそうとする姿が見られた。ワークシートの空いているスペースにも、自分が話したかった英語の質問をメモしている様子が見られた【資料 11】。このようにワークシートを通して会話に使いたい表現や単語を可視化することで、生徒の語彙力向上や教科書の単語の復習にもつながることが分かった。

テーマ「Who do you want to meet」			「I want to meet」 because	
日付 Date	パートナー	追加の質問	意識した項目	自己評価
6/2		Why?	4	B
6/9		Why do you think so?	4	A

【ベストパートナー（パートナーの良かったところ・真似したいところ）】
 このスティーとかが僕、たり回を見て話すことをしていた

【次に使いたい単語・表現】

日本語	英語	日本語	英語
味	flavor	とても美味	very
海	sea		
国	country		

【振り返り・これから身に付けたい力】
 最初のところから身を見て、全部の（？）の（？）を（？）に（？）
 Why do you want to go to Hokkaido? do you like Japanese sweets?
 What Japanese sweets do you like? do you like Japanese sweets?

自然な会話を目標にはあてない
 ことはいくらでも、さんは話さば
 自然な会話を目標にはあてない
 ことはいくらでも、さんは話さば

【資料 11】 生徒 B のワークシート

(2) 課題

① 仮説①に対して

【資料 8】のアンケートにおいて 4 月と比べて、「苦手に感じるようになった」「苦手なままである」と答えた生徒の中には「活動として毎回行うことで自分の下手さを実感してしまう」と感じた生徒もいた。英語そのものに苦手意識をもっている生徒や、人とのコミュニケーションが苦手な生徒にとっては Small Talk は負担感をもつ活動になった。これらに対する支援として、Small Talk 中の個別支援や全体でのフィードバックをより充実させる必要がある。また、Unit 2 の Stage Activity における即興的なやり取りでは、発表者への質問に対しては英文で尋ねるものの、質問に対する答えを単語で答えてしまう生徒が一定数いた。生徒の学習指導につながるように、ALT が参加する授業に限らず、普段の授業でも質問に対し、英文で答える機会を設ける必要性が改めて明らかになった。

② 仮説②に対して

今回の研究では、生徒が即興のやり取りにおける課題を設定しやすいように目標設定と自己評価を選択式にしたことで、項目にない課題について目標の設定と評価を行うことができなかった。そのため、Unit 2 における Small Talk まで、設定した目標とその自己評価が変わらなかった生徒が一定数いた。主体的に学習を調整するためには適切な目標設定を常に行い、練習させる必要がある。目標設定や自己評価において自由記述も取り入れ、生徒自身が感じた課題に対して取り組ませることで、自らが思い描くコミュニケーションを目指した学習を進めることができるようになる。また、「ベストパートナー」を記入させるだけに終わっていたため、その有効性を実感した生徒は多くなかった。他人のよいところを見つけて終わるのではなく、互いに共有することで、Small Talk における自分の長所を客観的に認識できる。Small Talk に共有する時間を加えたり、ワークシートを効果的に活用できるように工夫したりすることで、主体的な学びだけでなく、協働的な学びにつなげることができると考える。

8 おわりに

この研究は、パターン・プラクティス以外の対話活動として有意義な実践となった。ワークシートに工夫を凝らすことで生徒が自ら学びを調整し、主体的に学習を進める態度を育成することができた。一方で英語が苦手な生徒にとっては何を話せばいいか、どのように自分の考えを表現すればよいか分からずに活動が終わってしまう負担を感じる時間となるため、パターン・プラクティスのような定型文での対話活動も必要であることを再確認した。また、今回は「話すこと」に焦点を当てて進めたが、その他の技能においても生徒が自ら学びを調整し、主体的に学習することのできる態度を養うことができるように引き続き検討していきたい。